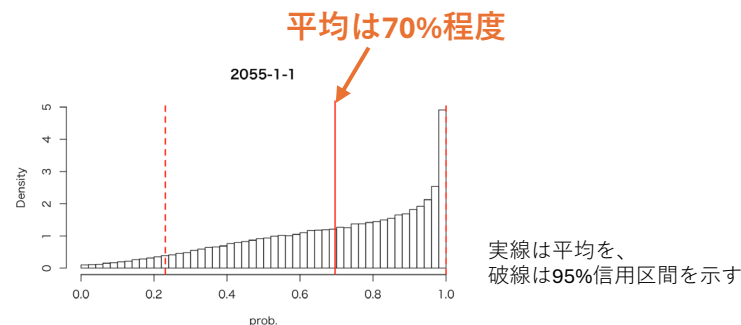


南海トラフ地震に関する長期評価の一部改訂について (現時点での取りまとめ)

主な変更点	現在：第二版（2013.5.24）	今回改訂：第二版一部改訂（2025.X）
室津港の隆起量データ	隆起量データに不確実性・誤差なし	隆起量データの 不確実性・誤差あり 隆起量データを誤差を考慮した 確率分布で表現 宝永地震だけでなく、安政地震、昭和南海地震についても表現
確率計算に用いたデータ、計算モデル、計算方法	■データ： ①地震発生履歴（ケースⅤ）と室津港の隆起量 ②地震発生履歴のみ（ケースⅢ～Ⅴ） ■計算モデル： ①②ともBPT(Brownian Passage Time)分布モデル ■計算方法： ① μ ：時間予測モデルから計算（88.2年） α ：0.20と0.24の2種類 ②最尤推定により、各ケースの μ と α を計算	■データ： ③地震発生履歴（ケースⅤ）と室津港の隆起量の確率分布 ④地震発生履歴のみ（ケースⅢ） ■計算モデル： ③ すべり量依存（Slip-Size Dependent：SSD）BPTモデル ④BPT分布モデル（BPTモデル） ■計算方法： ③④ともベイズ推定 ③ β と γ の事前分布、④ μ と α の事前分布を与え、発生確率値の70%信用区間を計算
30年発生確率値（2025年1月現在）	①時間予測モデル+BPT分布： 80%程度 ②BPT分布：20%～40%（ケースⅢ～Ⅴ：年次更新した確率値は公表していない）	③ ベイズすべり量依存BPTモデル：60%～90%程度以上 ④ ベイズBPTモデル：20%～50%（ケースⅢ）

③ベイズSSD-BPTモデルに基づく今後30年後の
南海トラフ地震発生確率の確率分布



④ベイズBPTモデルに基づく今後30年後の
南海トラフ地震発生確率の確率分布（ケースⅢ）

